

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572709558
法人名	有限会社 和幸
事業所名	グループホーム 寿敬庵
所在地	秋田県横手市十文字町腕越山道端79-11 (電話) 0182-55-2215
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年9月2日

【情報提供票より】(平成21年8月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人、非常勤 1人、常勤換算	14.8人

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(平成21年8月16日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連雄勝中央病院、高橋歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に1ユニット、平成18年2月に隣に1ユニットを開設した。それぞれの特徴を活かし、一人ひとりのその人らしさを引き出しながら、支援している。隣接している2ユニットがお互いに行事やボランティアの催し物等に参加し、交流が頻繁に行われている。建物の周りの環境は自然に恵まれており、入居者は家庭的な雰囲気の中でゆっくりと過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	個人ファイルの介護記録の整理の仕方について改善課題とされていたが、誰もが見やすいようにそれぞれ試行錯誤しながら検討されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	課題やケアの仕方等、職員が話し合いを持ちながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に家族や地域住民も参加し意見、要望を出して頂いたり、情報提供頂いたりしてる。運営推進会議で提案いただいた事について、職員で話し合いを持ちながら入居者の生活の質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の様子を月1回ホーム便りで郵送し、伝えている。家族からの苦情や不安なども運営に反映できるように投書箱を設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の方が買い物や散歩等で外出すると、昔からの顔見知りが多く気軽に声を掛けて頂いている。また、ホームとして町内会の行事等に参加して地域との連携を深めていけるように努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者や身体に障害のある人でも、安心して住める社会づくり」を理念に掲げ、実現を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者・家族とのコミュニケーションを大切にし、入居者の立場になり「安心して住める」ように見守りながら支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り等に参加して交流を深めている。また、年2回広報を発行し、グループホームの取り組み等紹介しながら交流を深める努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営・管理者、職員は評価する意義を理解している。評価結果について、職員が十分に話し合い検証し「安心して住める」ケアができるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域住民、家族等が参加し、意見、要望など出していただきサービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の時だけでなく、市町村と連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいくよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子を、月に1回「ホーム便り」として送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情に関して投書箱を設けている。また不満、苦情を職員会議で話し合いながらサービス向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に関して、過去に動揺がみられたこともあったので、異動の際は入居者に説明し納得していただけるように努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日々のケアを通して、職員同士がより良いサービスの向上を目指し、相談・研修を行いレベルアップを図ろうと努めている。</p>		<p>職員の能力や、経験に合わせて、研修計画を作成し、職員のレベルアップが図られるよう、期待する。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>3ヶ月に1回他のグループホームと交流を図る機会があり、勉強会や情報交換などを行い、サービスの向上に努めている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者が安心して生活していただける様に、ホーム内を見学していただいたり、職員と話しをしたり、その場の雰囲気を感じてもらい家族と相談しながら進めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はゆっくり判りやすく言葉をかける等、入居者と向き合う関係作りに努めている。お互いに感謝の気持ちを素直に伝え合い、支え合う関係も出来ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を基本に、話し合いの中から一人ひとりの意向の把握に努めている。また買い物など入居者の希望や要望等、本人に合わせた支援に配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で入居者、家族の意見を取り入れ具体的に話し合われた事を参考にケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月に1回見直しを行っている。また、変化が生じた場合は即座に介護計画の見直しを行い、ケアプランの変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が入院した場合、退院の見込みが立たない場合でも家族の希望に添えるように柔軟に対応している。家族の面会時間等は制限していない。また、家族の宿泊や、その際に食事を提供する等柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの、かかりつけ医は異なっているが、希望どおり、納得のいく医療が受け入れられる様に努力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族と医療機関が話し合い、職員全体で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない介護や言葉かけに配慮しながらプライドを傷つけないように支援されている。個人情報については、きちんと保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者に合わせた生活リズムを崩さない様に、入居者のペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせて、調理方法を変えたり、盛り付けしたり食欲をそそるよう工夫されている。献立は職員が作成しているが、後片付けや配膳準備等、利用者が能力に応じてできる事は、やって頂き、職員は見守りながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	健康状態に応じた支援を行っている。		入浴時間や曜日等決められているが、夏、冬など季節に応じて入浴回数を増減させる等、配慮されることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握しながら、生き甲斐のある生活をしていただけるように支援している。最近では畑仕事等、職員と作業を一緒にを行い、張り合を持った生活をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物、ドライブ等、本人が希望している場合に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は鍵を掛けずいる。さりげない言葉かけや、一緒について行く等気配りに努め、安全に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回（春、秋）町内会の消防団も参加し、防災訓練の実施に取り組んでいる。また、職員を消防署主催の救急講習会に参加させている。		地震等が起きた場合、天井の棚等高い所にある物が落ちてくることが考えられるので、早期に対応し、一層安全に暮らせる環境作りに期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が交代で、栄養士の助言を受けながら献立を作成している。水分量や食事制限のある入居者の方は医師の指示に従って、個々に合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、レースのカーテンで陽ざしを調節したりと入居者の方にとって居心地のよい共用空間となるよう努力している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ってきて使用し、一人ひとりが居心地良く生活できるようにしている。		

※ は、重点項目。